検査は何のために行うのか
―一次救急における検査の必要性について―

笠間市立病院長　石塚恒夫

4月より笠間市内の医師・薬剤師、県立中央病院の医師・看護師・薬剤師の協力の下に、平日夜間と日曜日の一次診療が笠間市立病院で始まりました。インフルエンザなどの迅速診断キット・心電図等は使用できるものの、採血検査やX線検査などはできません。必要な患者さんは、県立中央病院などの二次医療機関に紹介します。開始前は検査が行えないことに自分としても不安を感じ、徐々に検査ができる体制にしていこうと考えていました。しかし実際にはそれほど不自由を感じないし、他の先生からの要望もありません。

検査は何のために行うのか、医師の頭の中を解説します。第一に、命にかかわるような急性疾患を確定診断するために行います。咳・痰・発熱を伴う呼吸苦があれば、肺炎を疑い胸部X線検査を行います。第二に、その疾患を除外するために行います。症状から気管支炎程度と思っても、患者さんが肺炎を心配していれば検査します。第三に、検査すればわかる器質的疾患の早期診断のために行います。長引く咳を訴える場合、肺結核や肺癌を疑い検査します。

症状や身体所見から診断はある程度ついており、検査はその補助に過ぎないのです（正しい診断なしにやたらに検査しても、無駄であり患者さんに害を加えます）。一次救急の場合に当てはめてみると、第一の理由では県立中央病院等の二次医療機関に紹介するので必要ありません。第二の理由なら内服薬を処方するなどして経過観察してもらいますし、第三の理由では後日かかりつけ医に受診してもらいます。

ただし医師側にも、検査に頼らずに的確な診断をする努力が必要です。経過観察してもらう際にも、「どのくらい症状が続けば」「どのような症状があれば」など具体的な説明が必須です。検査ができなくても何とかなりますし、検査ができれば無駄な検査も増えるものです。それは患者さんの不安を解消するというより、医師の不安を解消するためかもしれません。

笠間のがんばる企業紹介㉔

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介します。

㈱ヤナカ

今回紹介するのは、八雲地区で操業する㈱ヤナカです。代表取締役社長の谷中收さんにお話を伺いました。

―どのようなものを作っているんですか？

「さまざまな機器の金属製品を作っています。例えば、自動車のエンジンをホーニング加工する『ホーン本体』と呼ばれる製品を作っており、今一番売れているトヨタ・プリウスのエンジンも当社製の製品で加工されています。また30年以上前から計測機器も作っていますが、その中のマスターゲージという部品には、当社が得意とするサブミクロン（0.0001ミリメートル）単位の高い加工精度が要求されます。髪の毛の太さが0.07ミリメートルですので、その約100分の1の細かさです。」

―すごい技術ですね！

「これほどの精度になりますと、手のぬくもりが伝わるだけで狂いが生じますので、気温・湿度が一定の特別な作業室を設けています。」

―地域社会や環境への貢献もされているとお聞きしました。

「地域の会合などの際に集会所として利用していただくため、会議室を町内会に提供しています。また品質面および環境面では、平成18年にISO9001とISO14001を同時取得しました。ISO認証は、取得だけでなく更新し続けることが大切です。当社では、工場長が中心となって更新審査に臨みました。苦労もありましたが、全社員が一丸となって取り組んだことは大きな収穫でした。」

―今後の展望をお聞かせください。

「昭和34年に小さな町工場でスタートして以来、オイルショックやバブル崩壊など、さまざまな困難を乗り越えてこられたのは、理解ある取引先と優秀な社員に恵まれたからだと思います。これからは社員の福利厚生を充実させ、より強い体質の企業にしていきたいと考えています。」

工場外観

【㈱ヤナカ】
従業員数：45人（パート含む）
※文責▽笠間市役所企業誘致推進室（内線228）